

# 幼児教育の今昔

豊田 英雄子

今日この會にお招き下さいまして實は上りかねて居りましたがたつて來るようにとのことでは何はともあれ折角のお招き故と、上つて皆様のお話も伺ひ今日の新しい様子も伺へると存じて上ることにいたしました。今朝水戸を立つてこちらにまゐつた次第でございます。

實は只今下田先生のお話で記憶をよび起しましたが、明治九年にこの幼稚園のもくろみがあつて十年に開いたのでございます。

當時松野クララ（當時ドイツに遊學せし松野礪<sup>ハツ</sup>氏の夫人）といふドイツ人があつてこの人がフレーベル直傳でいろく幼稚園保育のことに委しかつたので、明治十年の三月か四月かにこゝで幼稚園を開いて松野クララを學校で聘して、この人の手許について私や近藤はまさんが保母となり、ともかくも保育をしたようなわけでございます。その時は幼稚（當時は幼兒のことを幼稚といふ）は教育と云はず、教育といふ心にならず保育に専ら心を用ひたのです。教導もしないで開誘すると云ひました。これを精神に

入れて皆様とお互に保育開誘一方でやつたわけでございます。

幼稚はまことに感受性の早いもので、保育にはとにかく唱歌と音楽がなければ出来ません、私共はピアノは弾けず、クララがひいて居ましたが、私共も習つてしまひには段々ひけるようにはなつたのですが、當座は出来ません。出来なくとも子供は樂器をひくとうたにつれて、感受性が強いので愉快そうにあそびうたもすぐ覚ええました。やさしいのは風車でこれが一番先の歌でした、調子を宮内省の音樂所から日本風の譜をつけていたゞきました。これを笏拍子シヤクヒヤウシをうちながらうたふのです。子供はよろこんで誠によく聞きわけるのです。

唱歌といへば風車、家鳩イヌバト等で、當時音樂調所シラベを文部省におき、アメリカのメーソン氏が教師で、所長は伊澤修二さんでドイツのうたの譜のまゝであつたので、メーソン氏がふしをつけて日本の歌になほしたので、抑揚が大變むづかしいのでございます。これを方々の學校で用ふるころ私共は、すぎ間を見ては少しばかりひきまねをしました。この時家鳩を教へてゐましたら伊澤さんが、とんでもないことだ、幼稚にこんなむづかしいものをうたはせるのは、誰がこんなのをうたはせたかと大變に叱られました。自分では子供が喜んでうたふので、むづかしいとも思はなかつたのですが、先生に叱られましたので、こんなことはごく必要なことですからそれからいろいろ考へて見てそしてしやすいのを選びました。手藝のもとになるものは積木をしました。むづかしいと思ふ手藝でも思ひの外よくしました。子供はま



幼稚園懷舊談話會

ことに感受性の強いもの故すべて注意しなければなりません。

今申したように幼稚園は明治十年に始り、十二年三月には、鹿兒島に幼稚園をつくるといふ御沙汰があつてそこに行き創設せよとの命により一年半こゝに居ましたがどんな事をしたか思へば汗が出るようでございます。私も傳授をうけたとほりやつて見て保育室は長方形にするようにとのことで、遊戯室を長方形のなりにつくり夫々開講室が出来たのです。幼児は發育により四つ五つ六つと三つに別けて居りました。満三つといふのもあつたのですがまあ四つからをほんとうにしたのでございます。

保姆養成所へは大阪鹿兒島からも来て居りました。その後十七八年頃であつたかこの學校の附屬高女が獨立して上野に引越したので、これで私は幼稚

園から全く離れて高等女學校に行つてしまひました。時々訪問はしましたが幼稚園をどうするといふ機會もなく忘れてしまひました。その後幼稚園の事も段々すゝみ且つ又必要も世界の定見となりいろ／＼御研究もすゝみ十分と思ひますが、近頃になつてからこゝ三四年の間に農村托兒所が大分考へられて來たのでございます。(農村托兒所——これは茨城縣で始めたと云はれてゐますがその前に高知にあつたやうですが數が少ないので、茨城の方が普及して來たので先に始めたやうになつてゐます、愛國婦人會支部の主事柴沼與太郎氏が抑々考へて段々盛になつて居ります)

農村托兒所は農村の忙しい時に子供等の爲に邪魔されるので、その間子供をあづけるので、幼稚園とは云ひませんがまことに簡易で、ごく／＼質素な幼稚園で姉が學校に行く時に送つて行き歸りに又迎ひに來てそれ／＼負つたり手をひいたりして歸る、即ち幼稚園なのです。これは茨城に多くなつて十四郡に村が三百何村あるところに本年は托兒所が四十に近くもなり諸々から問ひ合せがあり、私も以前に幼稚園には關係して少しばかり骨を折りましたがしばらく機会がなくて何もしませんでした、農村托兒所はとりもなほさず幼稚園だと思つて開いた時に時々行つて見ます。夏の始めの田植時、秋の收穫の時等で、田植の時には、非常に多いので折々視察に行つて昔の事を考に浮べて少しばかり指導して居りません。只今では皆さんがよく研究していらつしやるから申分ないと存じ今日の進歩の御様子を承り昔の事を思ひ出し参考といたしたのでございます。只今小學校の一部をかりて雨でもふればこゝでしま

す。晴天なら立木の下等で僅の費用でして居ります。小學校の先生を頼み校長を所長にし砂の上のところ  
がり炎天にさらされ、まことに質素簡易であるが子供は嬉々として遊んで居ります。

これが只今の茨城縣の田舎の様子で都の幼稚園といふのはすべてが立派故托兒所などは比較にはなり  
ませんが田舎の有様をお知らせするのも御参考かと存じ一寸申上げた次第でございます。

## 母と子

生の泉はそこにのみわく。」

小さき者よ！いとしき者よ！

汝より出で、我胸を

春の訪れさながらに、

喜びと暖みもて

揺り動かすはそも何ぞ？

「一に信、二に愛、三に望なり。

信は眼まなこより迸り出で

只管ひたすらにみ親の愛を

我が守り神と信ずなり。

愛は微笑の中にさゝやき

み親との生の旅路に

光をのみぞ與ふなり。

望は胸に住ひなし

いざ我子！來よ我子！

共々に足並揃へ手を握り

人生の旅に出でんかな。

汝が心汝が母思ふ所には

母の優しき愛は動けり

汝が信、汝が愛、汝が望

あだには汝に留らじ。

年經る者が天國の

光を仰ぐ靈感も

幼き者の信と愛

望の中に宿るなり

——フレイベル母の遊戲と唱歌より——

(稻富榮次郎氏譯歌)